府立大正高等学校

学校経営推進費　評価報告書（２年目）

標記について、下記のとおり提出します。

１．事業計画の概要

実施課程名	全日制　普通科総合選択制
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	プロジェクターを活用したアクティブ・ラーニング型授業を継続的に実施できる教員の養成と増加 「学校教育自己診断」における生徒の授業に対する評価の向上 民間外部テストでの成績向上、進路未定者割合と退学者割合の前年度比減少
計画名	Cutting edge!TAISHO Project!! （プロジェクター活用の組織的アクティブ・ラーニング型授業で、変わる生徒、変わる学校、変わる大阪）

２．事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	１　加速度的に変化する社会の中で対応できる「資質・能力」の育成 (1)次期学習指導要領改訂を踏まえ「育成すべき資質・能力」を伸張させるための授業改善に取り組む。 ア　アクティブラーニングの視点に立った深い学び・対話的な学び・主体的な学びを実現するための授業改善をすすめる。 イ　「アクティブラーニング研究チーム」を中心に授業改革につながる研究・実践をすすめ、評価方法の研究も含め授業改革の進展を図る。
事業目標	①生徒の主体的学習時間を確保し、双方向の授業を実施・研究。プロジェクターを活用したアクティブラーニング型授業を継続的かつ多様な教科で実施することで生徒の満足度を向上させる。そのために、教諭のプロジェクターの使用率を３年後に100%にする。 ②ベネッセコーポレーションの「基礎力診断テスト」を用いて、学力の定着度を分析し、指導・改善していく。 ③授業改革により、進路未定者や退学者の割合を減少させ、市民社会の一員としての自覚を持ち、意欲的に役割を果たそうとする姿勢を持った人材を輩出する。 ④上記、①～③を全校的、組織的に実施し、３年後にＡＬ型授業の組織的実施におけるトップランナーとなる。
整備した 設備・物品	壁付け短焦点プロジェクター（20台）
取組みの 主担・実施者	主担：ＡＬ研究チーム　実施者：全教員
本年度の 取組内容	①授業改善チームの結成 ②自主学習会の実施 ③関西大学の教授による学校評議員としてのアドバイス（適宜） ④公開授業週間で授業の公開、研修 ⑤「基礎力診断テスト」の実施、分析
成果の検証方法 と評価指標	①ＡＬ研究チームメンバー25名以上。研究結果の分析、公表。 ②教員アンケートでのＡＬ定期的実施率75%以上。 ③学校教育自己診断の満足度の前年度比向上 「わかりやすい」80%→83%、「工夫している」80%→83%、「考え、発表する」76%→80% ④「基礎力診断テスト」での成績向上者（Ｃゾーン者）の前年度比10%増加。 ⑤進路未定者10%以下、退学者15名以下。
自己評価	①再編整備に伴い、ＡＬ研究チームを発展的に解散して、授業改善チームを結成。 校内での自主学習会のみ実施。（〇） ②教員アンケートでのプロジェクターの使用率 ・使用率　71.4%（前年比＋6.4%） ・使用者のうち、よく使う率　50.0%（前年比＋27.9%） ・使用者のうち、90.0%が効果を実感。さらに、目標値には満たないが、使用者のうち63.3%が生徒参加型学（ＡＬ型授業）がやりやすくなったと回答。（〇） ③学校教育自己診断で授業の満足度は微増しているが、生徒の活動は減少している。（△） ・「わかりやすい」　74.9%→76.4%（前年度比＋1.5%） ・「工夫している」　73.3%→74.7%（前年度比＋1.4%） ・「考え、発表する」69.5%→60.5%（前年度比－9.0%） ④「基礎力診断テスト」での成績向上者（Ｃゾーン以上の生徒数）10.4%（前年度比－3.6%）（△） ⑤進路未定者は、２月16日現在で14.1%（前年度比-1.2%）と減少している。目標値にまだ達していないが、年度末までにさらに減少が見込まれる（△）退学者27名（３年１名、２年10名、１年16名）（前年度24名）（３月13日時点の見込み）。（△）
次年度に向けて	①ＡＬ型の授業の推進 再編整備に伴い、生徒数・教員数ともに減少する中、生徒の基礎学力の定着や進路未定者・退学者の減少などに向けて、プロジェクターを活用した授業改善を進めるために、どのような取組ができるのか、１学期中に授業改善チームを中心に検討。 ②プロジェクターの使用率向上 プロジェクターの使用に関して、64.3%が教員用タブレットの整備、52.4%がwifi環境の整備を求めている。 再編整備に伴う閉校に向かう中、限られた予算の中で、どのような設備機器の整備ができるのかを１学期中に検討。